

横断歩道、止まらない？



標題は朝日新聞 12 月 17 日「フォーラム」。リードから一英国出身で日本に長く住む人の指摘に、日ごろやむやにしていたことを突きつけられた思いです。今回は朝日新聞に載った投稿をもとに、みなさんと考えます。日本では信号機のない横断歩道で歩行者が待っても、車は止まってくれない。これはみなさんの実感に近いですか？そして、解決すべき大きな問題はなのでしょうか？

「私の視点」に投稿した名城大学准教授のマーク・リバックさん（50）は、英国ロンドン生まれ。日本人と結婚し、通算 20 年以上日本に暮らします。昨年秋、愛知県一宮市内の信号機のない横断歩道で、小学生がスマホのゲームに気を取られた運転手のトラックにはねられ、死亡する事故が起きました。3 人の子どもがいるリバックさんはショックを受け、改めて道路交通法などを調べたうえで投稿したといます。

11 月 9 日掲載「私の視点」（要旨）

日本では、信号機のない横断歩道では歩行者がいても車は止まらない。私の母国イギリスやオーストラリアでは車は必ず止まる。日本の道路交通法でも歩行者優先で車の停止が定められている。歩行者と車のあいだには日本人独特の「あうんの呼吸」があって、その中でいつ渡るかを決めているようだ。ただ、外国人は「日本人は親切で礼儀正しい」と信じているので、車が止まると思い込み、事故にあう人が出かねない。この問題に取り組んでほしい。

何度か来日したリバックさんの母親は冗談半分で、日本の横断歩道を「Killer zebra」（人殺しシマウマ。英語で zebra crossing は横断歩道）と呼んだことがあります。初来日のとき、車が横断歩道で止まると思い込み、危うくひかれそうになったといます。

じつは、私も信号機のない横断歩道で危ない経験、嫌な思いをしたことが何度かある。「あいちの歩行者」「名古屋走り」などのレポートを今年 1 月に書いた。今回のフォーラムに注目したわけだが、これを読んでいて、マーク・リバックさんのことを思い出した。

私が名古屋市立大の学部長のころ、リバックさんは「外国人専任教師」として赴任した。気さくな人で、研究会などでよく話した。新聞で再開できるとは、嬉しいかぎりだ。

（2017 年 12 月 20 日）

